

2022年3月9日(水)第2水曜祈祷会

ヤコブの手紙2:1~13

「信仰と行い—差別について」

■ヤコブの手紙…(1:1-27) * 著者は主の兄弟ヤコブ。主の復活後に、主を信じる。

- ① 試練を喜ぶ。信仰が試されると、忍耐が生まれ、忍耐を働かせれば成熟した完全な者となる。
- ② 神によって高められ(成熟した完全者)、神によって低くされること(謙遜で柔和)を誇りとする。
- ③ 誘惑は罪を犯す原因の一つ。神が人を悪に誘惑することはない。自分の欲が罪へと誘う。
- ④ みことばを素直に受け入れる者は豊かな実を結ぶようになり、みことばは私たちを新しくする。

■信仰と行い—差別について(2:1-13)

1. 私たちの主、栄光のイエス・キリストへの信仰(2:1-7)

- ① 「私の兄弟たち」…ともにキリストの救いにあずかった者たち。キリスト者の平等性を表している。
- ② 「栄光のイエス・キリストへの信仰」…キリストに倣う者にえこひいきや差別があってはならない。
- ③ 「この世の貧しい者たち」…心の貧しい者たち(マタイ5:3)。神は彼らに御国を賜われる。
- ④ 「その名で呼ばれている尊い御名」…キリストの御名。信仰者がキリスト者と呼ばれること。

2. 自由をもたらす律法、聖書に従う(2:8-11) * 隣人とは私たちの助けを必要としている人のこと

- ① 「あなたの隣人を…」…主は「神を愛すること」とともに、この戒めをもって律法を要約された。
- ② 「えこひいきをするなら」…すべての人を同じように愛さなければ律法を踏み外すことになる。
- ③ 「一つの点で過ちを犯すなら」…律法のどの部分を犯しても、その人は律法の違反者となる。
- ④ 「姦淫しなくても」…律法の一つでも犯すならば、律法全体を犯すことと同じである。

3. 良い忠実なしもべとして(2:12-13) * 自由な

- ① 「自由をもたらす律法」…御言葉を信じて従うことによって、信仰者は主の聖さにあずかる。
- ② 「ふさわしく行いなさい」…主を喜ばせようとする思いこそ、キリスト者の言動の土台である。
- ③ 「あわれみ…」主の憐れみに生かされていることを知る者は自分も憐れみに生きようと思う。
- ④ 「さばきに対して」…義とされた罪人によって地上に示される憐れみこそ、勝利のしるしである。

まとめ:

- ① 「栄光のイエス・キリストへの信仰」とはどのような信仰ですか。
- ② 「自由をもたらす律法」とはどのようなものですか。
- ③ 「良い忠実なしもべ」とはどのような者ですか。
- ④ 信仰と行いとはどのような関係にありますか。

『わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。』

ヨハネの福音書5:24